

小麦新品種「チクシコムギ」について

野中舜二・吉田美夫・北原操一・鶴 政夫
田谷省三・荒木 均・牛腸英夫
(九州農業試験場)

登録番号

小麦農林121号 (系統名: 西海137号)

来歴

昭和39年4月、九州農業試験場において、フジミコムギを母とし、西海109号 (のちのニチリンコムギ) を父として人工交配を行い、昭和42年度 F₄ で派生系統として、以後、選抜固定を図って来た。昭和46年度に「西海137号」と命名し、関係各県の奨励品種決定調査の供試材料として配布し、地域適応性を検討して来た。昭和52年度における世代は F₁₄ である。

形態的特性

叢性はやや直立型で、農林61号に比べ5cm前後短程で稈は太い。穂数は同程度で、株はやや開く。穂型は紡錘型で、穂長は同程度であるが、やや密穂で1穂着粒数が多い。やや小粒で1ℓ重、千粒重ともやや軽く、外観上の品質は同程度かやや劣る。製粉特性及び粉の品質は農

林61号並で、めん用に適する。

生態的特性

出穂・成熟とも農林61号に比べ2日程度早い早生種で短程ではあるが耐倒伏性は農林61号程度である。収量は栽培法・年次間を通じて安定多収を示し、各地の試作成績でも多収である。耐病性は縞萎縮病に強く、赤かび病うどんこ病、赤さび病などには農林61号と同程度である。播種程度はIである。

適地及び奨励品種採用県

九州北部及びその類似地帯に適し、昭和52年度内に福岡県で奨励品種に採用予定で、当面、約8,000haの普及が見込まれている。早生、多収が主な採用理由である。

栽培上の注意

適期播種により穂数確保につとめる。

命名の由来

普及対象地帯である筑紫地方にちなむ。

チクシコムギの主要特性

形質		チクシコムギ	農林61号	試験実施農試名	
生育特性	出穂期 (月・日)	4.16	4.18	九州 (昭和44~51)	
	成熟期 (月・日)	6.2	6.4		
	稈長 (cm)	79	84		
	穂長 (cm)	9.6	9.7		
	穂数 (本/m ²)	295	291		
子実特性	収量 (kg/a)	標準栽培	36.0 (120)		30.1 (100)
		多肥栽培	35.2 (109)		32.3 (100)
		ドリル播	32.7 (119)		27.5 (100)
	ℓ重 (g)	千粒重 (g)	740		448
品質		31.9	33.5		
耐病性等	縞萎縮病	強	やや弱	九州 九州, 静岡 長崎 九州, 鹿児島, 高知山間, 東近 九州	
	赤さび病	やや強	やや強		
	うどんこ病	中	中		
	赤かび病	中	中		
	穂発芽性	中	やや難		
耐倒状性	強	中			